

令和5年11月17日

広島信用金庫

## 令和5年度 上半期業績 について

広島信用金庫（理事長 川上 武）の令和5年度上半期業績につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。

## 記

## 1. 令和5年度 上半期業績概要

## (1) 業容について

預 金	1, 668, 011百万円	(前期比 27,038百万円増 1.6%増)
貸 出 金	1, 058, 622百万円	(前期比 2,493百万円増 0.2%増)

預金は、地域に密着した営業活動を推進してまいりました結果、5年3月末比 270億円増加し、1兆6,680億円となりました。

貸出金は、地域経済の活性化を図るため、地域の皆さまの資金ニーズに積極的に対応いたしました結果、5年3月末比 24億円増加し、1兆586億円となりました。

## (2) 利益について

経 常 収 益	10, 594百万円	(前年同期比 214百万円増 2.0%増)
実質業務純益	2, 017百万円	(前年同期比 36百万円減 1.7%減)
コア業務純益	2, 140百万円	(前年同期比 86百万円増 4.2%増)
経 常 利 益	1, 328百万円	(前年同期比 28百万円減 2.0%減)
当 期 純 利 益	970百万円	(前年同期比 24百万円増 2.6%増)

有価証券運用利回りの上昇等による資金運用収益の増加および取引先課題解決手数料等役務取引等収益の増加により、経常収益は前年同期比2億14百万円増収の10億594百万円、コア業務純益は86百万円増益の21億40百万円となりました。

物件費の増加および国債等債券売却損の計上により、経常利益は前年同期比28百万円減益の13億28百万円、特別損失の減少により最終利益である当期純利益は前年同期比24百万円増益の9億70百万円となりました。

(3) 不良債権の処理状況について

資産のさらなる健全化をはかるべく、厳格な自己査定にもとづく不良債権の処理を行いました結果、令和5年度上半期における不良債権処理額は7億63百万円（前年同期比16百万円増）となりました。

(4) 信用金庫法および金融再生法による開示債権について

(金額単位：百万円)

	開示額 ①	担保・保証等 ②	貸倒引当金 ③	保全率 (②+③) / ①
破産更生債権等	3,233	854	2,378	100.0%
危険債権	26,496	14,850	5,166	75.5%
要管理債権	606	317	62	62.5%
三月以上延滞債権	1	—	0	10.2%
貸出条件緩和債権	604	317	61	62.6%
小計	30,336	16,022	7,607	77.8%
正常債権	1,033,506			
合計	1,063,842			

信用金庫法および金融再生法上の不良債権額は、303億36百万円（5年3月末比24億51百万円増、8.7%増）、不良債権比率は2.85%となりました。

なお、不良債権額のうち77.8%は、担保・保証および貸倒引当金により保全がはかられております。

(5) 自己資本比率（国内基準）について

自己資本総額	105,946百万円
コア資本に係る基礎項目	108,508百万円
コア資本に係る調整項目	2,561百万円
リスクアセット	805,579百万円
自己資本比率	13.15%

自己資本比率は、5年3月末比0.03ポイント低下の13.15%となりましたが、引き続き、国内基準の4.0%を大きく上回っております。

(6) 令和5年度決算予想（令和6年3月期予想）

- ・ 経常利益 28億円程度
- ・ 当期純利益 20億円程度
- ・ 自己資本比率 13%台
- ・ 不良債権比率 2%台

[お問い合わせ先] 経営企画部 広報室 TEL 082(245)0030